



【写真：平常時の活動等】①九都県市合同防災訓練 ②市内中学校での講演会 ③犬のしつけ教室
④24時間テレビから寄贈された救助犬輸送車（救助犬派遣時に実際に使用している）

【写真：災害時の行方不明者捜索活動】①②令和3年熱海市土砂災害 ③平成30年広島市豪雨災害
④平成26年広島市豪雨災害

**主な活動実績
(行方不明者捜索)**

- ▶ 令和3年 熱海市土砂災害
- ▶ 平成30年 広島市豪雨災害
…3人のご遺体を発見
- ▶ 平成23年 東日本大震災
…11人のご遺体を発見

※詳細は協会ホームページまたはfacebookページをご覧ください。

救助犬は生きています。亡くなっている方々にも嗅ぎ分けられます。捜索のスピードが速く、少ない数で対応することができます。

昨年、熱海市で発生した土砂災害にも救助犬を派遣し、消防の方と協力して「この場所に、埋もれた人が残されていないかどうか」の確認の捜索を行いました（右ページ写真②）。ぬかるみの中を歩き、犬も泥だらけでしたが、地元住民の方が水道を貸してくださり、犬をきれいにできたことが大変ありがたかったです。

interview

“何とか見つけ出したいという一心で”

日本搜索救助犬協会
代表理事 **江口タミ子** さん

久喜市を拠点として活動
日本搜索救助犬協会

菖蒲町三箇在住の江口タミ子氏（現代表理事）によって平成16年に設立。災害時に被災地へ救助犬を派遣し、行方不明者の捜索を行うほか、平常時には防災訓練参加、講演会等の防災啓発活動、犬猫の保護など、精力的に活動を行っている。平成19年に久喜市と「救助犬の出動に関する協定」を締結。

地震や土砂災害などの災害発生時、行方不明者を探すのは人間だけではありません。がれきなどに埋もれた方を、人間よりもはるかに優れた嗅覚で探し出す犬たちを「災害救助犬」と呼びます。そして、その災害救助犬を育成・指導する「ハンドラー」と呼ばれる方たちがいます。

今回は防災特集の特別編として、久喜市を拠点に救助犬の育成・派遣や防災啓発活動を行うNPO法人「日本搜索救助犬協会」取材しました。

ハンドラーの役割
一口に災害救助犬といっても、人間と同じように性格や素質はさまざま。それぞれの犬の特性を理解し、その犬に合わせた訓練を何度も繰り返し返す。どんな場面でも適切に対応できるようにコントロールすることがハンドラーの重要な役割です。また、実際の捜索時には、救助犬のささいな仕草を見逃さないことが大切。犬に対する深い理解と信頼が、行方不明者の発見につながります。

防災特集 特別編

埋もれた“いのち”を探して

災害救助犬とハンドラー

今後の展望は——
災害はいつどのような形で起こるか分かりませんが、今後も活動を継続していくために、災害地まで一緒に行っていただけるようなボランティアの方、特に若い方に、ぜひお手伝いいただけると嬉しいです。

防災について——
災害に対する準備としては、たくさんの方の力を借りるよりも、まずはちゃんと避難することができるといいですね。いざというときに動けるか？ではないでしょうか。また、ペットに関して言えば、避難に備えて普段からクレート（ケージ）に入れておく訓練をすることが、そういった環境に慣れさせることが大切です。

これまでの活動で印象に残っていることは——
行方不明者のご家族の方とお会いしたことです。皆さんやはり、救助犬を頼りにされているんです。私も「何とか見つけ出してあげたい」という一心で捜索しています。がれきの山というのは足場が悪く危険ですが、そんな想いもあり、捜索中は恐さを感じることはありません。

ハンドラーは、犬が効率良くにおいを嗅ぎ取ることができるよう、風の流れに注意し、犬を出す位置と方向を考えます。捜索は犬の意欲と自主性に任せますが、時にハンドラーが捜索する方向を指示することもあります。そして要救助者を発見した時に、たくさん褒める。立派な救助犬を育て上げるために、犬とのコミュニケーションを何より大切に、信頼関係を築いている様子が見えました。

ハンドラーは必要に応じて犬の動きを制御。

あっという間に発見！ハンドラーに吠えて伝えます。

やってきたのは東日本最大級の救助犬訓練施設。

取材班も隠れる役で参加。懸命に探してくれています。

密着取材
救助犬の訓練って
どんなことをする？

取材班は、救助犬訓練施設での訓練に密着。がれきの中に人が隠れ、救助犬はがれきから漏れ出る人のかすかなにおいを頼りに、捜索訓練を行います。

“犬との相互理解と信頼関係が必要”

まつやま ひろゆき
日本搜索救助犬協会 ハンドラー **松山 裕之** さん

訓練に携わる者として「犬は人の想像を絶する嗅覚を持っている」というのが実感です。例えば、公園に大きな木があって、数時間前にそこに人がしばらくの間たずんでいたとします。人がその場を離れてから数時間後、人間はそれを知ることができませんが、犬は「ここに人がいたな」と自然に感じ取るといいます。

ハンドラーは、人に見えない世界を犬に教えてもらいます。教えてもらうために、犬と人、両者の訓練と相互理解と信頼関係が必要になります。犬の優れた嗅覚だけでは救助犬は成り立たないので、良きハンドラーとなることを目指して励んでいます。